

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：12606
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2013～2016
 課題番号：25284025
 研究課題名(和文) 信時潔に関する基礎的研究 作品・資料目録データベースの作成と主要作品の研究

研究課題名(英文) A Basic Research on Kiyoshi Nobutoki: The Creation of Catalogue Database of his Works and their Sources, and Study on his Important Works

研究代表者

大角 欣矢 (OSUMI, Kinya)

東京藝術大学・音楽学部・教授

研究者番号：90233113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 17,300,000円

研究成果の概要(和文)：近代日本の洋楽作曲家第一世代を代表する作曲家の一人、信時潔(1887～1965)に関する音楽学的な研究基盤を確立するため、以下の各項目を実施した。全作品オリジナル資料の調査とデータベース化、全作品の主要資料のデジタル画像化、信時旧蔵出版譜・音楽関係図書目録の作成、作品の放送記録調査(1925～1955年のJOAKによる信時作品の全放送記録)、作品研究(特に《Variationen(越天楽)》と《海道東征》を中心に)、明治後期における「国楽」創成を巡る言説研究、伝記関係資料調査。このうち、からまでの成果は、著作権保護期間内の画像を除き原則としてウェブにて公開の予定。

研究成果の概要(英文)：Kiyoshi Nobutoki (1887-1965) is one of the first representatives of the Japanese composers who composed in a Western style. In order to establish a basis for further musicological research on him, the following projects were conducted: 1) Information of all his works and their original sources were compiled; 2) Main sources of all the works were digitized; 3) All published scores and books formerly possessed by Nobutoki were catalogued; 4) All the data of Nobutoki's works broadcast by JOAK were compiled; 5) A multifaceted study of his "Variationen (Etenraku)" (1917) and cantata "Kaido-Tosei" (1940) was carried out; 6) Discourses about "Kokugaku (National Music)" in the late Meiji period were analyzed; 7) Some original sources related to his biography, which had been hitherto not examined, were investigated. The result of items 1) to 5) will be available on the website of the Library of the Tokyo University of the Arts, unless the contents are protected by copyright laws.

研究分野：音楽学(西洋音楽史)

キーワード：信時潔 近代日本の作曲家 日本近代音楽史 東京音楽学校 自筆譜 音楽資料 資料目録 データベース

1. 研究開始当初の背景

信時潔(1887~1965)は、日本の洋楽作曲家第一世代の代表的人物として山田耕筰(1886~1965)と並び称され、とりわけ教育を通じて日本の作曲界に深く持続的な影響を及ぼしたとされる。にもかかわらず、信時に関する音楽学的研究は未だあまり進められていない。楽曲研究の面では、音階論を軸とした小島(1964)、ピアノ作品を扱った花岡(2006)を別とすれば、これまでの研究はほぼ歌曲集《沙羅》に集中してきた。

しかし、彼が日本洋楽史において果たした役割を正当に評価するためには、その活動を全体として検証して行く必要がある。だがその前提となる基礎資料の調査と整理は、未だ全く不十分な状態にあり、とりわけ本格的な作品・資料目録の不在が研究の進展の大きな妨げとなってきた。この欠落を補い、信時研究の学術的研究基盤を確立するため、本研究は立案された。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、現存するすべての信時潔作品のオリジナル資料、及び関連資料の詳細な調査を行い、それらに関する諸情報をデータベースとして蓄積し、原則として一般の利用へ向けて公開することである。第二の目的は、これらの調査から得られた成果に基づき、いくつかの主要な信時作品の研究を行うことである。これにより、厳密な資料研究に基づく信時作品研究のモデルケースを示すことができると考えられる。

3. 研究の方法

(1) 全作品資料の調査とデータベース化

信時作品の現存するすべてのオリジナル資料(自筆譜・筆写譜・初版譜)を調査し、資料情報(各資料の形状・寸法・紙の種類・フォリオ数・綴じ方等)、作品情報(表題・調・拍子・編成・作詞者等といった作品の内容に関わる情報、及び筆写者・筆記具・資料中の位置等、作品毎の筆記の様態についての情報)についてのデータ入力を進める。資料のほとんどは東京藝術大学附属図書館の信時潔文庫所蔵だが、一部外部所蔵のものもあるので(岩手大学、日本民藝館、木下記念スタジオ等)これらについても併せて調査を行う。これら蓄積した情報は、原則としてウェブ上で公開し、一般の利用に供するものとする。

(2) 全作品の主要資料のデジタル画像化

全作品の主要なオリジナル資料については可能な限りデジタル画像化を行い、本調査研究において活用するほか、著作権上の問題のないものについては、調査終了後に作品資料データベース内において公開する。

(3) 信時旧蔵出版譜・図書目録の作成

信時旧蔵の出版譜及び音楽関係図書(東京藝術大学附属図書館蔵)全点につき、書き込み等資料状態の記録を含む書誌目録を作成、

ウェブ上に公開し、一般の利用に供する。

(4) 作品の放送記録調査

JOAK 資料の調査を通じて信時作品の全放送記録を確認、データベース入力を行い、ウェブ上で公開する。

(5) 作品研究

作品研究のモデルケースとして、信時の創作初期、すなわちベルリン留学(1920年)以前の作品、特に最初の出版作品である《Variationen(越天楽)》(1917年)及び円熟期の代表作である交声曲《海道東征》(1940年)に的を絞り、資料研究、分析や解釈、創作の背景、歴史的な位置づけの検討などを行う。

(6) 「国楽」創成を巡る言説研究

信時の作曲家としての基盤形成の歴史的背景として見逃せないのが、明治後期以降特に盛んになる、近代国家としての日本が振興すべき「国楽」(国民音楽)についての議論である。その解明のため、新聞・雑誌等において展開されたそれらの議論を網羅的に調査する。

(7) 伝記関係資料調査

信時の基盤的資料研究の一環として、各地に所蔵の未調査の伝記関係資料を調査する。

4. 研究成果

(1) 全作品資料の調査とデータベース化

手稿譜・初版譜等の資料情報 7266 件、人名データ 665 件を含む作品資料データベースを作成、東京藝術大学附属図書館ウェブサイト上にて公開予定(URLは下記の通り)。

<http://www.lib.geidai.ac.jp/nobutoki.html>

(2) 全作品の主要資料のデジタル画像化

全作品の主要なオリジナル資料(自筆譜、筆写譜、初版譜自家本等)についてデジタル画像化(全4,890コマ)を行い、東京藝術大学附属図書館に寄贈した。このうち、著作権上の問題のないものについては、上記作品資料データベース内において表示可能とする予定である。

(3) 信時旧蔵出版譜・図書目録の作成

信時旧蔵の出版譜及び音楽関係図書(東京藝術大学附属図書館蔵)全3338点につき、書き込みを初め資料状態に関する情報を盛り込んだデータベースを作成、同図書館OPACへ組み込んで公開予定。下記URLにおいて検索語に「信時文庫」を指定することで抽出可能となる。

<http://opac.lib.geidai.ac.jp/opac/>

(4) 作品の放送記録調査

NHK放送文化研究所蔵のJOAK『邦人楽曲放送一覧』(1930~43年)、『洋楽放送記録』(1944~46年)及び『確定番組表』(1947~52年)その他により信時作品の1925~55年におけるJOAKによるすべての放送記録を確認、データ入力した。調査結果は上記作品資料データベースと同じURLにて公開予定。

(5) 作品研究

信時のベルリン留学(1920年)以前の作品

を網羅的に分析した。特に最初の出版作品《Variationen (越天楽)》については、現存する全オリジナル資料の精査に基づき、成立過程や創作の背景も含めた多角的な考察を行った。

その結果、本作品は当時、東洋と西洋の文明の関係のあり方が様々な方面から問われる社会状況の中、洋楽の形式を借りながらいかにして「日本の」作曲家としての創作表現を行うかについての、その時点での信時の音楽思考が結晶した一つの試みと捉えられることが明らかになった。

これらの研究成果は、日本音楽学会第 65 回全国大会(2014 年 11 月)、洋楽文化史研究会第 82 回例会(2015 年 7 月)、『東京藝術大学音楽学部紀要』第 42 集(2017 年 3 月)に発表した。また、これらの研究成果を踏まえ、研究分担者の一人、花岡千春は、世界で初めて《Variationen (越天楽)》を上記日本音楽学会席上で公開演奏し、また同曲の世界初の CD 録音を発表した(2015 年 9 月)。

さらに、代表作と見なされる交声曲《海道東征》(1940 年)を巡って、作品の全体構造や個々の楽曲の分析及び解釈、東京音楽学校での上演や、その他戦後に至るまでのその上演史の網羅的な調査、社会的背景を含めた日本の洋楽作曲史における位置づけ等の検討を行った。

その結果、作品構造にはシンメトリーが認められ、そこに雅楽、洋楽、民謡、近世邦楽といった、日本の歴史と近代を通じてその社会構成を包括的に象徴する音楽要素が規則的に配置されていること、しかもそれらの諸要素が極めて調和的に組み合わせられていることが明らかになった。そしてこれは、日本的・アジア的価値を前面に押し出しつつ創作表現を行おうとする当時の作曲界一般の趨勢を背景に、音楽取調掛を設立した当初から伊澤修二らが掲げてきた「東西二洋の音楽を折衷して国楽を作る」という、連綿と受け継がれた理念の実現として、「皇紀 2600 年」を機に立ち上げられた国家を挙げての文化振興プロジェクトという時機を得て生まれた、近代日本の芸術的代表作の一つであることが確認された。

これらの研究成果は、本研究プロジェクトが東京藝術大学と協力して企画したシンポジウム「《海道東征》とその周辺 信時潔 没後五十年の地点から考える」(2015 年 11 月) 同大主催「信時潔没後 50 周年記念演奏会《海道東征》」のプログラム冊子(2015 年 11 月) 同大附属図書館貴重資料展「東京音楽学校初演から 75 年 《海道東征》展」(2015 年 11~12 月) 同館主催の SP レコード・コンサート「蓄音機で聴く信時潔

信時潔没後 50 年を記念して」(2015 年 12 月) ナクソス・ジャパン刊 CD《海道東征》添付ブックレット(2016 年 4 月)等を通じて発表した。

なお、本作品の現行出版楽譜の細部には少

なからず疑問の点が見られることから、オリジナル資料との照合を踏まえて検証し、訂正もしくは修正提案を行った。

(6) 「国楽」創成を巡る言説研究

信時が音楽家を志して東京音楽学校で学び、作曲の営みをスタートさせた時代背景について考察するため、近代日本が創り出すべき国民的な音楽、「国楽」に関する議論を、明治 20~45 年の新聞・雑誌等の言説から抽出し、その特質と変化を調べた。その結果、次のことが明らかになった。

「国楽」として洋楽と邦楽のいずれを採るべきかという、明治 20~30 年代にかけて盛んだった議論は、30 年代末以降次第に下火になり、特に 40 年の邦楽調査掛設置を境に、洋楽と邦楽はそれぞれ別々に独自の発展を遂げて行くべき、という考え方が強まる。それと平行する形で、日露戦後の「東西文明調和論」を背景として、洋楽を基本とし、そこに日本らしさを盛り込んだ「国楽」を目指すべき、という意見が優勢になる。これは結局のところ、前述した、伊澤らによる「和洋折衷」による国楽創成という理念の継承と捉えることができる。これが信時の修学時代の背景をなす状況であり、それが彼のその後の作曲家としての自己形成に影響を及ぼした可能性が考えられる。

この研究成果については、研究代表者が日本音楽学会第 67 回全国大会(2016 年 11 月)にて口頭発表を行った。

(7) 伝記関係資料調査

野村胡堂・あらえびす記念館(岩手県紫波郡紫波町)における信時の書簡の調査、和歌山の寺院の過去帳や同県立図書館所蔵の史料の調査、信時家子孫へのインタビューなどを通じ、従来詳しく知られていなかった信時の伝記的情報に関する調査を行った。

また、信時のベルリン留学時代(1920~22 年)の習作等の手稿に師ゲオルク・シューマン Georg Schumann の書込みが見られる可能性の検証のため、ベルリン国立図書館等において手稿譜・スケッチの調査を行った。また、留学時代に師事したチェロの教師ヴィリー・デッケルト Willy Deckert について調査するとともに、シューマンの下での勉学の実情を探るため、同門の弟子たちの書簡についても調査を行った。

これらの調査結果の分析に基づく詳細な成果報告は今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

1. 橋本久美子「乗杉嘉壽東京音楽学校の青年期における社会教育的教育観の形成」、『東京藝術大学音楽学部紀要』第 40 巻、査読有、2015 年、91-106 頁

<http://id.nii.ac.jp/1144/00000566/>

2. 大角欣矢、花岡千春、片山杜秀、信時裕子「Composer Begins 信時潔の初期の活動とその背景」(パネル発表報告)、『音楽学』第 60(2)巻、査読有、2015 年、226-228 頁
3. 大角欣矢、片山杜秀、塚原康子、信時裕子、花岡千春「信時潔の《Variationen(越天楽)》に関する研究 その成立・特色・背景」、『東京藝術大学音楽学部紀要』第 42 巻、査読有、2017 年、1-26 頁

〔学会発表〕(計 10 件)

1. 橋本久美子「東京音楽学校関連研究の課題と方法」、『音楽教育史学会第 26 回大会、日本女子大学 新泉山館、2013 年 5 月 11 日
2. 橋本久美子「乗杉嘉壽校長時代の東京音楽学校にみる社会教育論的学校運営」、『東洋音楽学会第 64 回大会、静岡文化芸術大学、2013 年 11 月 10 日
3. 橋本久美子「乗杉嘉壽校長時代の東京音楽学校にみる社会教育論的学校運営」、『洋楽文化史研究会第 78 回例会、早稲田奉仕園セミナーハウス、2014 年 1 月 25 日
4. 橋本久美子「日本近現代美術史・音楽史における東京藝術大学アーカイブズの役割」、『アート・ドキュメンテーション学会年次大会、東京藝術大学音楽学部、2014 年 6 月 7 日
5. 大角欣矢、花岡千春、片山杜秀、信時裕子「Composer Begins 信時潔の初期の活動とその背景」、『日本音楽学会第 65 回全国大会、九州大学大橋キャンパス、2014 年 11 月 8 日
6. 大角欣矢、信時裕子、石田桜子「信時潔と東京音楽学校 信時潔文庫整理の過程で見てきたもの」、『洋楽文化史研究会第 82 回例会、東京藝術大学音楽学部、2015 年 7 月 18 日
7. 橋本久美子「乗杉嘉壽(のりすぎかじゅ)東京音楽学校長時代への敗戦後の視座の転換 『聯合軍總司令部ヨリノ指令』と小宮豊隆(こみやとよたか)資料を手掛かりに」、『東洋音楽学会第 66 回大会、東京藝術大学音楽学部、2015 年 11 月 1 日
8. 大角欣矢、信時裕子、片山杜秀、橋本久美子「シンポジウム《海道東征》とその周辺 信時潔 没後 50 年の地点から考える」、『東京藝術大学音楽学部、2015 年 11 月 28 日
9. 大角欣矢「明治後期の新聞・雑誌等に見る『国楽』を巡る議論 近代日本の『国楽』に関する包括的歴史研究へ向けた予備的報告」、『日本音楽学会第 67 回全国大会、中京大学名古屋キャンパス、2016 年 11 月 12 日
10. 橋本久美子、西山伸「東京音楽学校における学徒出陣の記録について 京都帝国大学の事例とあわせて」、『日本音楽学会第 67 回全国大会、中京大学名古屋キャン

パス、2016 年 11 月 13 日

〔図書〕(計 4 件)

1. 橋本久美子、大角欣矢、片山杜秀、信時裕子『信時潔没後 50 周年記念演奏会《海道東征》』(プログラム冊子) 25 頁、東京藝術大学演奏芸術センター、2015 年
2. 信時裕子『東京音楽学校初演から 75 年：「海道東征」展』(展覧会図録) 8 頁、東京藝術大学附属図書館、2015 年
3. 花岡千春、信時裕子、仲辻真帆『越天楽～日本のピアノ曲、信時潔の系譜』(CD、及び添付ブックレット) 8 頁、ベルウッド・レコード、2015 年
4. 橋本久美子、大角欣矢、片山杜秀、信時裕子『信時潔：交響曲「海道東征」』(CD 添付ブックレット) 40 頁、ナクソス・ジャパン、2016 年

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

1. 藍川由美「日本のうた編年体コンサート」2013 年 9 月 29 日(企画構成・講演：片山杜秀)
http://takushoku-alumni.jp/20130731_1760
2. 塚原康子「高野辰之と日本歌謡史」東京藝術大学附属図書館貴重書展『高野辰之展 唱歌「ふるさと」の原点をたずねて』解説、2013 年 10 月、6-7 頁
3. 塚原康子「西洋音楽の受容と日本の伝統音楽」、『五線譜に描いた夢 日本近代音楽の 150 年』(展覧会図録)、明治学院大学、2013 年 10 月、48-49 頁
4. 花岡千春『チェレブニン コレクション ピアノ曲集』(CD)、ベルウッド・レコード、2014 年 9 月
5. 橋本久美子「音楽取調掛から 135 年」(講演) 音楽学部ホームカミングデー第 1 回記念演奏会、東京藝術大学奏楽堂、2015

- 年1月10日
6. 手塚義明作詞、信時潔作曲「我等は太陽民族(われらはひのたみ)」(大正13年)の復元音源の公開
<http://archive.geidai.ac.jp/641>
 7. 東京藝術大学附属図書館主催 SP レコード・コンサート「蓄音機で聴く信時潔 信時潔没後50年を記念して」(2015年12月5日)への協力(企画構成・解説: 信時裕子、大角欣矢)
 8. 信時潔研究ガイド
http://www.nobutoki.sakuraweb.com/index.php?action=pages_view_main&block_id=114&page_id=100&active_action=announcement_view_main_init#_114
 9. 信時裕子「海道東征 母校における75年目の再演とその楽譜」
http://www.nobutoki.sakuraweb.com/?action=common_download_main&upload_id=200
 10. 信時裕子「ラのドファシラ」(信時潔生誕130年 作曲家の庭9)
http://www.nobutoki.sakuraweb.com/?action=common_download_main&upload_id=199
 11. 花岡千春(ピアノ演奏)「尾高尚忠作曲《みだれ〜2台のピアノのためのカプリッチョ Op.11》」中島彩也香ピアノ・リサイタル(2017年3月25日、王子ホール)での演奏、及びプログラムノート執筆
 12. 土田英三郎「藝大史のアーカイヴを育てよう」東京藝術大学音楽学部第2回ホームミングデイ演奏会プログラム(2016年5月22日、東京藝術大学奏楽堂)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大角 欣矢 (OSUMI KINYA)
東京藝術大学・音楽学部・教授
研究者番号: 90233113

(2) 研究分担者

花岡 千春 (HANAOKA CHIHARU)
国立音楽大学・音楽学部・教授
研究者番号: 00282153

塚原 康子 (TSUKAHARA YASUKO)
東京藝術大学・音楽学部・教授
研究者番号: 60202181

片山 杜秀 (KATAYAMA MORIHIDE)
慶應義塾大学・法学部・教授
研究者番号: 80528927

(3) 連携研究者

土田 英三郎 (TSUCHIDA EIZABURO)
東京藝術大学・音楽学部・教授
研究者番号: 10143645

橋本 久美子 (HASHIMOTO KUMIKO)
東京藝術大学・音楽学部・学術研究員
研究者番号: 70401495

(4) 研究協力者

信時 裕子 (NOBUTOKI YUKO)
石田 桜子 (ISHIDA SAKURAKO)
大河内 文恵 (OKOUCHI FUMIE)
三枝 まり (SAEGUSA MARI)
須藤 まりな (SUDO MARINA)
中津川 侑紗 (NAKATSUGAWA ARISA)
仲辻 真帆 (NAKATSUJI MAHO)
吉田 学史 (YOSHIDA GAKUSHI)